

葉山災害ボランティアネットワーク
HSVN
平成 30 年度総会 議案書

日時 平成 30 年 5 月 19 日(土)午後1時 30 分より

場所 葉山町福祉文化会館大会議室

第 1 号議案 平成 29 年度活動報告及び
同収支報告並びに会計監査報告

第 2 号議案 平成 30 年度活動計画(案)

第 3 号議案 平成 30 年度予算(案)

【第1号議案】平成29年度活動報告、同収支報告及び会計監査報告

平成29年度活動報告

平成29年度、活動の基本重点事項として次の4点を掲げました。

＜基本重点事項＞

1. 会員のスキルアップと知識体験の共有
2. 正会員の発掘と賛助会員の拡大による人的・財政的基盤の強化
3. 関係機関・団体との連携強化と認識の共有
4. 会員の交流・参加機会の充実と結束の強化

以下、実施した活動の概容を報告します。

1. 学習・訓練活動について

○「災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」に基づく訓練活動

◇第5回災害ボランティアセンター設置運営訓練（10月22日）

- ・葉山社協と共催で、『ニーズ聞き取り調査』訓練を行いました。
- ・参加者は、会員、町内会関係者、地域団体、葉山社協などの21名。

◇第6回ボランティアセンター設置運営訓練（H30年3月4日）

- ・葉山社協と共催で、『事前マッチング』訓練を行いました。
- ・参加者は、会員、町内会関係者、地域団体、葉山町・葉山社協などの48名。

○地域に適したボランティアセンター運営とは何かを探る活動

◇『葉山災害ボランティアセンターポータルサイト』の開発と充実

- ・九州北部豪雨の臨時掲示板を開設し、被災地の他の情報支援サイトと連携しました。
- ・通常時サイトに加えて、発災時サンプルサイトを設置。双方の充実を図っています。
- ・H27年9月開設以来アクセス数24,000回。防災科研の事例紹介サイトの1つになっています。

◇「熊本地震から1年後の益城町」の視察（7月8日～9日）4名参加。

- ・益城町内はじめ各地の被災状況、仮設住宅、仮設店舗、仮設工場等を視察しました。
- ・当初災害時支援基地予定の施設に被災者が集まり、結果避難場所となるなど、事前訓練想定外で混乱した状況などを伺いました。

◇『葉山まちあるき』地域理解への掘り下げと地域住民との交流

- ・「葉山まちあるきNo.7:堀内山手通り探検」（6月17日）20名参加。
- ・「葉山まちあるきNo.8:長柄探検パート①」（12月3日）18名参加。
- ・「葉山まちあるきNo.9:長柄探検パート②」（H30年1月28日）20名参加。

○ボランティアコーディネーター等養成研修にメンバーを派遣する活動

◇「かながわ災害救援ボランティア支援センター立上げ訓練」

（8月12日、H30年3月8日）1名参加。

◇ビッグレスキューかながわ「九都県市合同防災訓練（神奈川県・小田原市合同総合防災訓練）」
（9月1日）6名参加。

◇横須賀市・関係団体共催「災害時ボランティアセンター設置運営訓練」（11月19日）2名参加。

◇「大学研究者と地域をつなぐ防災・減災研究集会」（11月23日、H30年3月21日）1名参加。

◇かながわ災害情報連絡会「電子地図勉強会」4月より計9回、2名参加。

◇よこはま・七つ星、やまと災害ボランティアネットワーク福祉防災訓練「地域福祉防災力の向上を」
（H30年3月9日）1名参加。

◇逗子市及び関係団体共催「災害救援ボランティアセンター設置運営訓練」（H30年3月11日）1名参加。

2. 被災地支援活動について

○近隣の災害ボランティア活動団体と連携し、町民の被災地支援経験の機会を増やす活動

◇被災地復旧応援活動

- ・「九州北部豪雨被災地応援屋台」(7月26日)
森戸海岸海の家「FLAT」のご厚意で実施。被災地の食品販売と募金活動を行いました。
- ・「100万人の線香花火ナイト」(8月11日)森戸海岸で実施。参加者80名。
- ・葉山元町商店会主催ニコニコバザールで支援の呼びかけ(H30年3月11日)
旧NTT駐車場で、図書とTシャツの寄贈受付及び募金活動を行いました。

3. 広報活動について

○町内の各種イベント会場で、HSVNの活動を紹介

◇湘南ビーチFM「わっしょい！葉山」番組出演(10月17日)

- ・柿本代表が、HSVNの活動やボランティアセンター設置運営訓練等秋の活動を紹介しました。

◇葉山町総合防災訓練参加(11月11日～12日)

- ・会場の上山口小学校で、防災協力団体として活動を紹介しました。他に、会員による「風呂敷の便利で役立つ使い方」講習を行い、緊急時にも便利と好評でした。

◇東伏見自治会防災懇親会参加(11月19日)

◇ニコニコバザール・元町商店会主催のフリーマーケット 参加(H30年3月11日)

4. その他活動報告

◇平成29年度 HSVN 総会 (5月27日)

- ・H28年度決算の承認、H29年度活動計画と予算の承認及び役員改選が行われました。
- ・総会の後、神奈川県共同募金会事務局長中島孝夫さんによる記念講演「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)の概要」を開催しました。

◇運営委員会(拡大運営委員会を含む)12回開催。

◇HSVC 広報委員会

- ・災害ボランティアセンターを立上げ時、社協とHSVNは初期段階にそれぞれ何をするのか、共通認識と手順を共有するため新たに委員会を設け4回開催しました。

◇HSVN インターネット&パソコン勉強会(7月3日、7日)

◇マニュアル・様式改定検討会

- ・引続き、社協が主導しH30年度上期中に改定の予定。

◇『災害ボランティアセンター連携会議』(H30年2月22日)

- ・葉山町地域防災計画改定案パブリックコメントに意見書をしました。

◇HSVNの活動や仲間づくりのため、会員を対象にアンケートを実施。

◇近隣自治体の災害支援ボランティア団体組織との連携

- ・逗子災害ボランティアネットワーク総会に出席しました(5月20日)

◇はやま防災ネットワーク主催「インターネット勉強会」で、『葉山災害ボランティアセンターポータルサイト』を紹介(吉田会員・H30年2月13日)

◇葉山町防災講演会「災害時の行動と連携～災害を生き抜く人間行動学～」(H30年3月11日)

- ・防衛大学校准教授加藤健さんによる講演会に出席しました。

5. 組織状況報告

◇平成29年度末 会員数 正会員 36名 賛助会員 13名

以上

平成 29 年度収支報告

葉山災害ボランティアネットワーク 平成29年度収支報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

科 目	29年度 予算(¥)	29年度 実績(¥)	摘 要
I 収入の部			
1)会費	50,000	43,000	単年度会費納入41名×¥1,000 複数年度会費納入1名×¥2,000
2)助成金	100,000	100,000	社協
3)参加費	0	0	
4)寄付金	10,000	10,000	三留モーター、あじへい
5)繰越金	253,915	253,915	前年度より
6)預金利息	0	2	
収入合計	413,915	406,917	
II 支出の部			
1 事業費			
1)ボランティアコーディネータ養成研修費	30,000	0	
2)ボランティア訓練講師謝礼	30,000	0	
3)ボランティアセンター設置運営訓練	50,000	62,866	訓練実施に係る資料作成費、軽食、案内はがき代など
4)ボラバス派遣関係費	0	0	
5)支援プロジェクト関係費	50,000	15,000	熊本地震現地調査費用助成
6)広報関係印刷費	20,000	15,635	活動に伴うチラシの印刷など
7)ネット広報費	0	0	
事業費計	180,000	93,501	
2 管理費			
1)加盟会費	18,000	13,000	KSVN加盟費、社協加盟費
2)イベント保険	5,000	1,932	
管理費計	23,000	14,932	
3 事務費			
1)会議費	15,000	6,800	会議、各種催し参加時の飲み物、弁当など
2)交通費	0	0	
3)通信費	20,000	11,782	往復はがき、切手、宅配便など
4)消耗品費	15,000	13,491	印刷用紙、展示資料作成文具など
5)機材購入費	70,000	4,084	のぼり旗ポール購入
6)雑費	20,000	3,562	駐車場料金、会議用飲料代など
事務費計	140,000	39,719	
4 災害支援準備金	50,000	0	
5 繰越金	20,915	258,765	
支出合計	413,915	406,917	

平成 30 年 5 月 12 日

会計監査報告書

葉山災害ボランティアネットワーク 代表 柿本 秀二 殿

会計監査

宮田 路子



会計監査

松元 美恵



葉山災害ボランティアネットワークの平成 28 年度会計監査を下記のとおり実施しましたので報告します。

記

監査実施日

平成 30 年 5 月 12 日

監査書類

平成 29 年度収支会計報告書 および 関係書類

監査結果

上記の書類について、厳正に監査を行った結果、公正、妥当に処理されていることを認めます。

以上

【第 2 号議案】平成 30 年度活動計画(案)

未曾有の災害 3.11 から 7 年が過ぎました。この間、復興支援活動を通して私たちが得たものは、

- ・災害から立ち直る活動に積極的に参加し、繰り返し学習し経験をつむこと
- ・そこから 被害の軽減を図る道(減災のための様々な手法)を探ること

という、地味ですが大切な教訓でした。災害の発生を“防ぐことはできない”という冷酷な事実を目の当たりにして、それでも生き抜かなければならないための工夫を学んで来たのです。

振り返れば、阪神淡路大震災の悲惨な経験がベースとなって、大規模災害時には“災害ボランティアセンター(VC)”が設置され、被災者と支援ボランティアとの調整が図られる仕組みができました。以来、大規模災害現場では、常に災害ボランティアセンターが被災者に寄り添う存在となりましたが、同時に、“被災地側の援助を受け入れる力”すなわち『受援力』も試されることになりました。災害の種類や規模が異なり、また社会の対応力も年々変化している中では、完璧な『受援力』のモデルはなく、自分達の地域に合った受援システムの構築が必要とされています。

葉山が大規模災害に遭遇したときは、社協の要請に基づき、HSVＮが主体となって災害ボランティアセンターの運営を行うこととなります。改めて、“葉山の『受援力』はどうか”、“いざという時のために何を備えて置いたらよいか”、“こうした緊張感をどのように持続させるか”などを課題に置き、和やかな中にも緊張感のある活動を推し進めたいと思います。

＜活動の基本方針＞

混乱の状況下で本団体が活動するためには、何よりも会員のチームワークと技量の発揮が求められます。同時に、行政、社協、各種ボランティア団体、町内会、自治会等と顔の見える関係がなければなりません。この原則を捉え、以下 4 つの基本重点事項を掲げ活動することにします。

基本重点事項

- その1. 会員のスキルアップと知識体験の共有を図ること
- その2. 会員の発掘に努め、人的・財政的基盤の強化を図ること
- その3. 会員の交流・参加機会の充実と結束の強化を図ること
- その4. 関係機関や地域の団体との連携強化と認識の共有を図ること

<具体的活動内容>

○学習・訓練活動計画

◇VC 運営要員の底辺拡大と会員のスキルアップ

- ・町内会や町内の各種ボランティア団体のメンバーに対し、VC 設置運営訓練への参加を積極的に呼びかけるとともに、HSVN への入会を勧誘する。
- ・『葉山まちあるき』『葉山語り場』などのオープンな野外活動を行う中で、地域住民との交流を深め、HSVN への理解を促進しつつ、町内の隅々まで把握できるように会員自らのスキルの向上を図る。
- ・『VC 設置運営訓練』を通じ、ボランティアセンターの運営を担えるボランティアコーディネーターの育成を図る。
- ・「葉山災害ボランティアセンターポータルサイト」の運営と内容の充実を図る。役場ホームページからのリンクを働きかける。
- ◇外部機関が主催するボランティアコーディネーター養成研修への派遣
- ・研修で習得した技術や知識を持ち帰り、ボランティアコーディネーターの養成に役立てる。
- ◇「災害ボランティアセンター運営マニュアル」の点検、見直しを行なう。

○被災地支援活動計画

- ◇『3.11 被災地復興支援ボラバス』を運行し、多くの町民に復興状況の確認をしていただき、被災の風化を防ぐよう努める。
- ◇町内の各種イベント会場で、大規模災害を忘れない資料の展示、被災地の物産販売、被災地支援募金などを行う。
- ◇『3.11 追悼:100 万人の線香花火ナイト』を催す。
- ◇災害に機敏に対応できる支援体制として、“災害支援活動準備金”の積み立てを続ける。

○広報活動計画

- ◇『葉山町総合防災訓練』に参加し、災害ボランティアセンターの役割の紹介を行なう。
- ◇町内の各種イベント会場で、HSVN の活動を紹介する。
商店会マーケット、町内会や自治会の会合等
- ◇HSVN の活動を記録し、ネットなどを通じて紹介する。
- ◇HSVN の会員が集う『葉山語り場』充実し、情報の紹介や会員の親睦を図る場とする。

○総務活動計画

- ◇「月例運営委員会」を開催し、会員相互の交流、意見の交換を図る。
- ◇「災害ボランティアセンター連携会議」に参加し、行政、社協等と情報の共有を行なう。
- ◇社協と、災害ボランティアセンター立ち上げ手順についての協議組織「HSVC 広報委員会」を運営する。
- ◇近隣自治体の災害支援ボランティア団体組織との連携を強め、相互に活動を支援しあう。

以上

【第 3 号議案】平成 30 年度予算(案)

平成30年4月1日～平成31年3月31日

科 目	29年度 予算(¥)	30年度 予算(¥)	摘 要
I 収入の部			
1)会費	50,000	49,000	会員49名×@1,000
2)助成金	100,000	100,000	社協助成金
3)参加費	0	0	
4)寄付金	10,000	10,000	
5)繰越金	253,915	258,765	前年度より繰越し
6)預金利息	0	0	
収入合計	413,915	417,765	
II 支出の部			
1 事業費			
1)ボランティアコーディネータ養成研修費	30,000	15,000	ボランティアコーディネーター養成講座など
2)ボランティア訓練講師謝礼	30,000	20,000	講演会、研修などの講師謝礼金
3)ボランティアセンター設置運営訓練	50,000	50,000	訓練実施に係る諸費用、訓練備品など
4)ボラバス派遣関係費	0	100,000	『ボラバス』特別会計へ繰り出し
5)支援プロジェクト関係費	50,000	15,000	
6)広報関係印刷費	20,000	18,000	『町あるき』チラシなど印刷
7)ネット広報費	0	0	
事業費計	180,000	218,000	
2 管理費			
1)加盟会費	18,000	13,000	KSVN、社協会費
2)イベント保険	5,000	3,000	
管理費計	23,000	16,000	
3 事務費			
1)会議費	15,000	7,000	
2)交通費	0	0	
3)通信費	20,000	15,000	
4)消耗品費	15,000	15,000	
5)機材購入費	70,000	20,000	
6)雑費	20,000	5,000	
事務費計	140,000	62,000	
4 災害支援準備金	50,000	50,000	緊急支援活動経費、助成等費用
5 繰越金	20,915	71,765	
支出合計	413,915	417,765	

平成30年度ボラバス特別会計予算 (案)

(訪問地福島県相馬市) 復興支援と減災研修ボランティア ツアーバス

科 目	予算 (¥)	摘 要
I 収入の部		
1) 参加費	250,000	参加者個人負担@10,000×25人
2) 繰入金	100,000	本会計より繰り入れ
収入合計	350,000	
II 支出の部		
1) バスチャーター代	298,000	バスチャーター代、高速道路料金
2) 相馬市視察ツアー	2,000	震災語り部(説明役)への講話費用
3) 弁当代	25,000	参加者昼食@1,000×25名
4) 雑費	25,000	相馬市関係者への手土産代、振込み手数料、写真代等
支出合計	350,000	